

平成27年新春知事挨拶



静岡県知事

川勝 平太

明けましておめでとございます。皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年4月、県では、新たな総合計画「後期アクションプラン」をスタートさせました。日本の国土のシンボルである富士山から導かれる多様な価値に立脚し、各人が個性を発揮して、美を重んじ、和を尊び、物心ともに豊かで品格ある社会、富国・有徳の理想郷「ふじのくに」づくりの総仕上げを着実に進め、「県民幸福度の最大化」を目指してまいります。

今、地方創生が重要な課題となっておりますが、本県では、国に先駆け、大規模地震への万全の備え、防災・減災と地域成長の両立を目指す「内陸のフロンティア」を拓く取組、人口減少社会への挑戦、新成長産業の育成と雇用創造など、安全・安心で魅力ある地域づくりに取り組んでいます。

本県は、世界遺産・富士山や、世界農業遺産の茶草場農法、ユネスコエコパークの南アルプス、世界ジオパークを目指す伊豆半島、世界文化遺産候補の葦山反射炉など、世界水準の「場の力」に恵まれた地域です。また、日本一を誇る食材やお茶、美しく咲き誇る花々、豊かな森林や水、全国トップの日照条件など、「食の都」「茶の都」「花の都」「森林の都」「水の都」「太陽の都」と呼ぶにふさわしい中心性を持つ地域です。

「ふじのくに」静岡県には、こうした世界水準の「場の力」を最大限に活用し、その中心性を自覚しながら、ポスト東京時代を拓く我が国の新しい顔として、世界に飛躍していくことが大いに期待されます。

その先駆けとして、今年「徳川家康公四百年祭」が開催されます。戦乱の世を天下泰平の世に変え、文化の力、「学問立国」の構築により「バックス・トクガワナ（徳川の平和）」を実現した、その御遺徳と歴史の意義を国内外に発信し、家康公ゆかりの地・静岡をアピールしてまいります。

県では、2016年主要国首脳会議（サミット）の本県開催を目指しています。先進国の首脳一堂に会する世界最高峰の会議の開催は、高い経済効果に加え、この地域の存在を未来の世代に伝える絶好の機会になるでしょう。また、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京五輪の開催に向けて、開催会場や宿泊地の誘致を進めています。ロンドン五輪でのカルチュラル・オリンピックの成功に倣い、文化的なイベントを各地で展開するなど、スポーツ振興のみならず、文化、観光、産業の幅広い分野で交流を進展させ、地域活性化につなげてまいります。

今年一年が、本県が富士山のように人々の憧れを集め、「世界の中のふじのくに」にふさわしい魅力ある地域として発展し、世界に羽ばたく幕開けの年となるよう、全力を傾注してまいりますので、皆様の御理解と御協力を願って申し上げます。

結びに、今年一年間の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。新年の御挨拶といたします。

平成27年元旦

「静岡そして日本の医療を考えるうえで」

キューバの医療（その2）

世界的に注目を集める医療先進国の状況



静岡県立総合病院 救急診療部長

安田 清

② 予防医学に力をいれ、お金のかけずに結果を出している

子供が生まれると「ファミリードクター」の看護師が各家庭をまわり13種の予防接種（表1）をしていく。米国の経済封鎖で薬の調達ができなくなったキューバでは85%の薬を自国で作成している。13種のワクチンのうち8種を自国で開発した。遺伝子組み換えで開発したHibワクチンは副作用が少なく安価で多くの国で使われている。また

た妊婦は妊娠が判明してから最低12回の妊産婦検診が行われる。新生児は生後12ヶ月まで1ヶ月おきに検診を受ける。乳幼児死亡率は先進国と肩を並べ、米国より低い。このようにお金をかけずに医療レベルを上げている点で世界の注目を浴びている。

日本ではまだ問題になっている伝染病に、麻疹、風疹、百日咳、B型肝炎がある。治療にお金をかけるより、予防に力を入れたほうが安く効率的だという考え方が徹底されている。ちなみにB型肝炎（HB）のワクチンは日本では母体が陽性な場合のみ子供に投与されている。専門家は全員実施を望んでいるが、多額の予算が必要のため未だ実施されていない。しかし日本よりはるかに貧しい国キューバでは実施されている。ワクチン接種が始まった28歳以下では撲滅されているのである。B型肝炎↓肝硬変↓肝臓の治療のコストを考えれば予防の方が安上がりという考え方は説得力がある。

③ 発展途上国や被災国に手厚い医療支援

ハバナ郊外に「ラテンアメリカ医科大学」がある。ここでは中南米、アフリカを中心に74カ国から12500人の学生が医師になる勉強をしている。貧しくて医師が少ない国の医師を養成している。驚くことに、教材は勿論、住居費、食費、被服費まですべて無料である。南アフリカやパキスタンの学生と話す機会があったが、「貧しくて自分の国では医師になれなかった」と目が輝いていた。日本の医科大学20校分もの他国の医師を養成し、医師免許取得後は自国の大都会以外でどこで医療をすることが義務だそうだ。①（誰

もがどこでも無料で医療を受けられること）にも②（予防医学に力をいれ、お金をかけずに結果を出していること）にも驚かされたが③（発展途上国や被災国に手厚い医療支援をしていること）は何のためか理解できず「なぜそんなことをするのか？何のためか？」と質問した。「災害支援時、途上国では医療が手薄で引き継ぐ医療がないため長期になる。キューバの医師は60%が女性で子供を置いて支援に出る女性も多く長期になると辛い。それならその国の医師を作ろうということになった」と説明を受けたが、驚いて言葉が出なかった。確かにキューバは世界中の災害に支援をしていて、例えば2005年のパキスタンの地震では2400人も医療団が6ヶ月間支援した。それ以外にチェルノブイリの甲状腺ガンや白血病の子供たちを2万人も受け入れて治療しているがこれも日本では知られていない。

まとめ

日本は急速に超高齢化社会に向かっている。さらに都会に人口が集中していくため地方から医療の崩壊がゆっくり確実に進行している。高齢者もその家族も今後の医療や福祉に強い懸念を抱いている。しかし若者が減ることで収入が減り、高齢者が増えることで支出が増える将来に対して、国も医療もサービスの縮小以外に有効な方針を示せないでいる。はるか貧しい国で、CT・MRIはおろかカルテに使う紙さえ不足している中で、国内どこでも24時間無料の医療を提供することで国民の医療に対する信頼を獲得している国があること、予防に力をいれることで治療にかかるお金を減らし、結果的に安い医療費で効果を上げている国があることは今後の日本の医療に大いに参考にするべきだろう。

(表1) キューバの小児定期予防接種一覧 (日本外務省)

ワクチンの種類	1回目	2回目	3回目	4回目・追加
BCG	出生時			
ポリオ(経口)	生直後	3歳	9歳	
HB(母体が陽性)	生後12時間～24時間	1ヶ月	2ヶ月	12ヶ月
HB(母体が陰性)	生後12時間～24時間			
D.P.T.+HB(母体が陰性)	2ヶ月	4ヶ月	6ヶ月	
D.P.T.				18ヶ月
Hib.	2ヶ月	4ヶ月	6ヶ月	18ヶ月
MeningococoByC	3ヶ月	5ヶ月		
P.R.S.	12ヶ月	6歳		
D.T.				6歳
A.T.	9歳～10歳		12歳～13歳	15歳～16歳
T.T.				13歳～14歳

* HB (B型肝炎), D.P.T (ジフテリア+破傷風+百日咳), Hib (インフルエンザb), P.R.S. (麻疹・風疹・耳下腺炎), D.T. (ジフテリア+破傷風), A.T. (腸チフス), T.T. (破傷風)

平成26年10月1日発行第119号に続き、静岡県立総合病院救急診療部長 安田先生に、キューバの医療について紹介していただきました。